３　キャリア教育の取組～実践事例～

《生活科》
学校で働く人々に関心を持ち、学校生活への意欲を高める

単元名　なかよしいっぱい　だいさくせん　（第１学年）

ねらい

○学校生活を支えてくれている人々や学校施設の様子に関心を持ち、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとしている。
○学校探検の様子を振り返り、発見したことや感じたことを絵や言葉で表現することができる。
○学校にはいろいろな施設、きまりがあることや学校生活は多くの人に支えられていることに気付くことができる。

本実践とキャリア教育

入学して間もないこの時期、新しく出会う人や物に進んで関わろうとする児童がいる一方で、緊張状態が続き、環境の違いに適応しにくい児童もいます。本単元では、児童が親しみを持って接する人々を増やしたり、自分の好きな場所を見つけたりする学習を通して、活動範囲を広げ、自信を持って生活できるようにしていきます。また、学校で働く人々について調べる活動を通して、いろいろな仕事があることや、たくさんの人々に支えられて生活していることにも気付かせていきます。このことが、身の回りの様々な人々や仕事に目を向け、人と関わる力を高めていく契機となっていくと思われます。

全体構想

なかよしいっぱい　だいさくせん（全１８時間）

主な学習活動	時数
○わたしのがっこう ・学校の中で、知っている場所や人について話し合う。	2
○みんなでわくわくがっこうたんけん （２年生との合同授業）**【本時】** ・２年生と学校探検をしたり、１年生だけで学校探検をしたりする。	4
○なかよしになりたいな ・上級生や教職員と交流し、仲良くなる。	6
○なかよしみつかるいきかえりのみち ・通学路の探検をする。	4
○なかよしいっぱいみつけたよ ・気付いたことや楽しかったことを絵や言葉で表現し、発表する。	2

教科等との関連

〈学級活動〉
「がっこうのきまり」

〈道徳〉４-（３）
「たのしいがっこう」【文渓堂】

〈国語〉
「どうぞよろしく」

〈国語〉
「えをみてはなそう」

〈道徳〉２―（３）
「こころはっぱ」【東京書籍】

【本時のねらい】 決まりやマナーを守りながら、学校探検をし、学校にはいろいろな人がいたり、いろいろな物があったりすることに気付くことができる。

《 展 開 》（第３・４時／全１８時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	１　１・２年生合同で、学校探検のめあてとルール･マナーを確認する。	○事前に学校全体に趣旨や内容を説明し、協力をお願いしておく。 ○ルールやマナーについて、自分たちでも考えられるよう、発問を工夫する。
	ルールやマナーにきをつけてがっこうたんけんをして、がっこうのひみつをみつけよう。	
	２　互いに自己紹介をする。	**◎場に応じた話し方や声の大きさなどに気を付けて友達と話すことができるようにする。** **【人間関係形成・社会形成能力】**
展開	３　学校探検をする。 	○児童が楽しんで取り組めるよう、スタンプラリー形式の探検カードや２年生が作ったクイズなどを準備しておく。 ○いろいろなことに気付くことができるように、活動時間を十分に確保する。 **◎それぞれの教室にある物を見学し、教室の「ひみつ」を考えさせたり、２年生に質問させたりして、学校にはいろいろな物があることに気付かせる。　【課題対応能力】** **◎静かに廊下歩行ができた児童や、職員室、保健室などできちんとあいさつができた児童をしっかり賞賛することで、マナーへの意識を高める。【人間関係形成・社会形成能力】**
まとめ	４　発見したことや思ったことを発表したり､聞いたりする。	○発見したことや思ったことを、絵や簡単な言葉で探検カードに書き、それを見ながら発表させる。 ○みんなで感想を伝え合うことで、もう一度行きたい、確かめたいという思いが持てるようにする。
	５　学習の振り返りをする。	☆廊下歩行のルールやあいさつなどのマナーに気を付けながら探検をし、学校にはいろいろな人がいることやいろいろな物があることに気付くことができている。

実践のポイント

★<u>基本的な生活習慣や社会生活上のきまりについて、繰り返し指導しましょう</u>。

基本的な生活習慣を身に付けることや社会生活上のきまりを理解することは、入学して間もない時期の最も大切なことの一つです。家庭との連携を密にして、日常生活の中で繰り返し指導しましょう。

★<u>児童の実態に応じて柔軟に展開を工夫しましょう</u>。

具体的な体験や活動を多く設定し、楽しく学習を展開していくことが大切です。また、一つの活動を１５分程度とし、複数の活動を組み合わせて１単位時間を構成し、児童の活動意欲を持続させることが大切です。

★<u>学校全体の協力体制を整えておきましょう</u>。

学校探検の実施前に、学校全体で共通理解を図り、教職員や上級生が１・２年生に積極的に話しかける等、学校全体の協力が得られるようにしておきましょう。

《道徳》
みんなのために働こうとする心情を育てる

主題名　ぼくにまかせて　４－（２）　（第１学年）
資料名「おふろばそうじ」（出典　文部科学省資料）

ねらい

○働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

本実践とキャリア教育

第１・２学年の道徳の内容項目４－（２）「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」は、勤労観・職業観の育成を目指したキャリア教育と関連深い内容です。この単元で扱う家庭でのお手伝いは、児童にとって最も身近な集団である「家庭」で、家族の役に立つために働くという、勤労の基礎となる内容です。

低学年では、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多いので、その実態を生かし、みんなの役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などが感じ取れるようにします。また、家族や教師、友達、地域の人など他者から認められることで、自己肯定感が高まり、実践意欲の向上に結びつきます。そして、「家庭」から「学級・学校」「地域」へと、関わる集団を広げていくことが期待できます。

全体構想

日常的な活動

○係活動

○清掃、給食、日直などの当番活動

○飼育栽培活動

○夏休み・冬休みの家庭でのお手伝い

○縦割り班活動

〈道徳〉４―（２）**【本時】**
「おふろばそうじ」　家庭

〈道徳〉４―（２）
「そうじ」【学研】　学校

〈道徳〉４―（５）
「ひのようじん」【文渓堂】
地域

教科等との関連

〈生活科〉
「お手伝い大作戦」

〈学級活動〉
「たのしいふゆ休み」

〈学級活動〉
「３がっきのかかり」

〈生活科〉
「大きくなったぼく・わたし」

〈勤労生産・奉仕的行事〉
「クリーン作戦」

【本時のねらい】家族のために働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

《 展 開 》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　家でのお手伝いの経験について発表する。 ○お手伝いをしていてどんな時がうれしいですか。	○生活科の学習と関連させ、自分の取り組んでいるお手伝いを想起させる。 ○お手伝いでうれしさを感じた経験を聞き、価値への方向付けを図る。
展開	2　資料「おふろばそうじ」を読んで話し合う。 ○うれしくてたまらなくなったあきらは、どんなことを考えたでしょう。 ・ほめられてうれしい。 ・喜んでくれてうれしい。 ◎「あきらならできる。」と頭をなでられた時、あきらはどんな気持ちになったでしょう。 ・がんばってよかった。 ・上手になってうれしい。 ・これからも、続けてがんばるぞ。 3　自分の生活を振り返る。 ○あきらのように、自分の仕事をがんばったことがありますか。その時どんな気持ちでしたか。	○資料の内容が理解しやすいように場面絵や主な会話等を提示する。 **◎あきらの気持ちを考えることを通して、多様な働くことのよさに気づかせ、家族のために働くと家族が喜ぶとともに、自分も働く喜びを得られることに気付かせる。　【キャリアプランニング能力】** **◎働くことの大変さに共感できるようにするとともに、やり遂げた時の達成感やそこに自分の成長があることに気付かせ、働くことのよさをより深く感じとらせる。　【キャリアプランニング能力】** ☆自分の生活を振り返り、家族のために働くよさに気付き、今後もがんばりたいという意欲を高めている。
まとめ	4　家族のメッセージカードを読む。	○事前に、家族から児童ががんばっている姿についてのメッセージをもらっておく。 **◎一人一人の姿を認め、励まし、自己肯定感を高めて、働くことへの意欲を高める。** **【自己理解・自己管理能力】**

実践のポイント

★各教科等の関連を考えて授業を構想しましょう。

道徳の時間を要として、生活科、係活動や当番活動など日常的な活動との関連を図りながら、年間を通して、意図的、計画的、継続的に指導していくことが大切です。

★認めたり励ましたりしながら継続的に指導しましょう。

「お手伝い大作戦カード」や「わたしたちの道徳」等を活用し、家庭での仕事や係活動、当番活動など、日常の活動場面での児童の様子を捉え、認めたり励ましたりしながら継続的に指導しましょう。

★キャリア教育としての価値やねらいを保護者に伝え、家庭と連携しましょう。

「学級便り」や「わたしたちの道徳」「お手伝い大作戦カード」「連絡帳」等で児童の姿を保護者と伝え合い、連携を図っていくことが大切です。学校での仕事を家族からも、家でのお手伝いを教師や友達からも認められることで、児童の自己肯定感が一層高まり、働く意欲につなげることができます。

《生活科》
他者に働きかけることを通し、社会形成能力を育成する

単元名　ザリガニランドを開こう（第２学年）

ねらい

○自分の育てている生き物について、楽しみながら紹介したり、友達と協力して会の準備をしたりしようとする。
○ザリガニの特徴や調べて分かったことを友達に伝えることができる。
○２年生やクラスの友達に優しくできる自分や、生き物を大切にできる自分の成長に気が付くことができる。

本実践とキャリア教育

本単元は、２年生が１年生をお客として招待し、交流を深める活動です。招待するためには、どのような準備が必要なのかを個人やグループで話し合います。そして、気付いたことをもとに、個人又はグループで案を考え活動をします。友達（他者）や下級生に働きかける活動は社会（他者）へ働きかける力の育成につながります。また、グループで意見をまとめたり、下級生を案内したり、説明したりすることを通して、コミュニケーション力を育成することができます。

全体構想

生活科（全6時間）
「1年生に校内を案内しよう」

①学校探検の準備をする。
・１年前、２年生に校内を案内してもらったことを思い出し、計画を立てよう。
②探検活動の準備をする。
・校内の教室配置が分かる地図や各教室の看板を作ろう。
③探検活動を行う。
・グループに分かれて校内を案内しよう。

生活科「生き物となかよくなりたい」（全6時間）

①生き物見つけの計画を立てよう。
②生き物を見つけに行こう。
③生き物を大切に育てよう。

生活科「ザリガニランドを開こう」
（全５時間）

①1年生と交流する準備をする。
・1年生が楽しめるような動物ランドの計画を立てよう。
・分かりやすく説明できるように、説明資料を作成しよう。
②ザリガニランドを開催し、1年生と交流会を開く。**【本時】**
・役割分担を考え、自分の仕事の準備をしよう。
・１年生へ動物の特徴を分かりやすく説明しよう。
・自分の役割を果たそう。
・会全体の運営を行おう。

生活科
「おもちゃランドを開こう」
（全９時間）

【本時のねらい】ザリガニランドの開催を通して、準備したことを説明したり、下級生の質問に答えたりすることができる。

《 展 開 》（第４・５時／全５時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	１　前時までの学習を振り返り、準備したお店に１年生を招待することを確認する。	○準備したことを活用して他者（１年生）へ働きかけていくことを確認する。 ○前時までの学習内容を確認し、本時の活動の見通しを持てるようにする。
	１年生に楽しんでもらえるように質問に答えたり、説明したりしよう。	
展開	２　前半と後半に分かれて、お店を運営する児童と、お客を案内する児童の役割を確認する。 ３　１年生をザリガニランドに招待する。 ４　説明をしたり、質問に答えたりする。	○役割分担を確認することで、会やお店の運営に見通しを持つことができるようにする。 **◎聞き手のことを意識して、１年生からの質問に答えたり、説明をしたりすることができるようにする。** **【人間関係形成・社会形成能力】** ○会全体の様子を見ながら１年生を案内するように声をかけることで、効率よくお店を運営することができるようにする。 ☆１年生が楽しめるように、お店の説明をしたり、質問に答えたりすることができている。
まとめ	５　１年生と感想を交流し、本時の活動を振り返る。	**◎感想をもとに、説明したり、会を運営したりする力を伸ばそうとする意欲を高め、本時の活動の意味を理解できるようにする。　【キャリアプランニング能力】**

実践のポイント

★児童の意欲が持続できる単元を継続的に計画しましょう。

２年生の児童は、学習意欲が旺盛で下級生への関わりが楽しみで仕方ありません。そこで、自分のアイディアを実際の活動に反映させ、１年生が喜んでくれたり、楽しんでくれたりする体験を継続的に計画することで、社会参画の素地を築くことができます。

★友達と交流できる場を意図的に設定しましょう。

個人の力だけでは成功しない、友達の力を必要とする活動を意図的に設定しましょう。成功させるためには、友達とのコミュニケーションが必要となり、コミュニケーション力や他者へ働きかける力を養うことになります。

《総合的な学習の時間》
地域への愛着を持ち、働くことの喜びを体得させる

単元名　ブルーベリー　大すき！！（第３学年）

ねらい

○ブルーベリーの栽培に関心を持って、友達と協力して栽培活動をしたり、ブルーベリーについて調べたりする活動に取り組むことができる。
○ブルーベリー農家の見学や栽培活動などの体験を通して、農家の方の思いや願いに気付き、分かったことや考えたことを新聞やプレゼンテーションにまとめ、発信することができる。
○農家の方との交流やブルーベリーの栽培活動を通して、自分の考えを深め、自分に何ができるかを考えることができる。
○地域の方に対して、礼儀と感謝の心を持って接するとともに、友達と協力して、課題を探究することができる。

本実践とキャリア教育

本実践は、社会科「わたしのまち　みんなのまち」「農家のしごと」との関連を図りながら、地域の特産である「ブルーベリー」について学習を展開し、栽培活動の経験や地域で働く方との触れ合いを通して、望ましい職業観、勤労観を育みます。地域に根ざした学習をキャリア教育の視点で見直すことで、ねらいが明確になり、体験活動を一過性のものとして終わらせるのではなく、働くことや学ぶことへの意欲の向上につなげることができます。

全体構想

教科等との関連

〈社会科〉「わたしたちのまち　みんなのまち」

〈社会科〉「農家のしごと」

〈道徳〉４―（２）「公園の草とり」【文渓堂】

〈道徳〉４―（５）「祭りだいこ」【文渓堂】

総合的な学習の時間（全２８時間）

主な学習活動	時数
○地域の特産品について調べよう。	2
○学級園でブルーベリーを育てよう。 ・育て方を調べよう。・見学の準備をしよう。	4
○ブルーベリー農家の見学をしよう。**【本時】** ・摘み取り体験・○○さんから学ぼう。	2
○ブルーベリーの世話をしよう。 ・世話の仕方を○○さんから教わろう。	4
○収穫したブルーベリーを調理しよう。	4
○農家の○○さんを招いて感謝の気持ちを伝えよう。（ブルーベリーパーティー）	6
○２年生に伝えることをまとめよう。	6

【本時のねらい】ブルーベリー農家の見学や摘み取り体験を通して、ブルーベリー栽培の工夫、農家の方の思いや願いに気付き、学級園でのブルーベリーの栽培活動への意欲を高めることができる。

《 展 開 》（第７・８時／全２８時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　農家の方に挨拶をし、本時のめあてを確認する。	○事前に質問したいことを準備しておき、目的意識を持って、見学できるようにする。
	○○さんのブルーベリー農園を見学して、気付いたことや思ったことを○○さんに伝えよう。	
展開	2　ブルーベリーの育て方について話を聞く。 3　摘み取り体験をする。 4　質問をする。	○自分たちが学級園で育てている様子と比べながら、話を聞くようにし、工夫を発見しやすくする。 **◎体験を通してブルーベリーの育て方や摘み取りの仕方を理解し、働くことの苦労や収穫の喜びが味わえるようにする。【キャリアプランニング能力】**
まとめ	5　本時の活動を振り返り、感想や感謝の気持ちを伝える。	○見学カードに気付いたことや感想などを記入してから発表するようにする。 **◎農家の方への尊敬の念と感謝の気持ちを込めて、活動の感想やお礼を伝えるようにする。【人間関係形成・社会形成能力】** ☆農家の方の苦労や喜びが分かり、学級園でのブルーベリーの栽培活動への意欲を高めている。

実践のポイント

★地域で働く人と関わる活動を大切にしましょう。

地域には、様々な産業があり、その道に励んでいる方がいらっしゃいます。地域で働く方との出会いや関わり合いを通して、働くことの楽しさを実感できる体験を意図的に計画することが大切です。また、地域の方の協力を得るためには、事前のお願いや当日の挨拶、事後のお礼など、マナーに関する指導が大切です。地域の方とよりよい関係を築くことが、学習をより深めます。

★体験活動をキャリア教育の視点で見直し、単元を構想しましょう。

体験活動をキャリア教育の視点で見直すことは、キャリア教育の充実につながります。この単元では、地域の農家での見学や体験と学級での栽培活動を並行して行うことで、地域に対する愛着がより深まり、働くことの楽しさを感じることができるように単元を構想しています。体験活動の位置づけを教師が明確にしておきましょう。

総合的な学習の時間等で、地域の仕事をテーマに学習を展開する場合、単元終末には、様々なまとめ方が考えられます。新聞にまとめる場合は、キャリア教育の視点を入れながら模造紙などに大きくまとめ、学校内に掲示し、多くの人に見てもらうことが有効です。

また、単元のはじめに学習の流れを児童に示し、作成する新聞を「おかやま新聞コンクール」など、外部のコンクールに出品することを知らせれば、学習への児童の意欲を更に高めることができます。

《社会科》
働く人たちの姿や思いから、働くことの意義を考えさせる

単元名　工場ではたらく人びとのしごと（第３学年）

ねらい

○鴨方町で古くから手延べそうめん作りが盛んな理由を知り、自分たちの地域の自然や文化の特色に興味を持つことができる。
○そうめん工場で働く人々の仕事について調べる計画を立てるとともに、働いている人々の願い、工夫や努力について考えたり、調べたりしたことをパンフレットにまとめることができる。
○そうめんを作る人々の思いや仕事の様子、他地域との関わりなどについて、パンフレット作りに必要な情報を工場見学や資料から収集することができる。
○そうめんを作る仕事に携わっている人々の工夫や他地域との関わりを理解することができる。

本実践とキャリア教育

本実践では、消費者に喜んでもらえる商品を作ろうと努力している生産者の情熱や創意工夫について、見学やインタビューを通して理解を深めていきます。職人さんが自分の仕事に誇りや願いを持って働いていることを共感的に捉えることは、児童の勤労観・職業観を育む上で大いに役立ちます。本実践を通して、児童一人一人が将来の夢を膨らませ、夢に向かって努力しようとする態度を養うことができます。

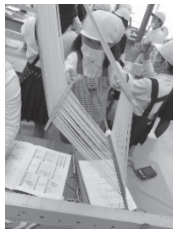
全体構想

社会科　工場ではたらく人びとのしごと（全１２時間）

主な学習活動	時数	教科等との関連
○鴨方町のそうめん作り名人について調べよう。	1	〈特別活動〉そうめん流しをしよう。
○そうめん工場について調べ、工場見学の計画を立てよう。	3	
○工場を見学し、めん作りを体験したり、インタビューをしたりして課題を解決しよう。	4	〈道徳〉　３―（２）働くことのすばらしさを知り、進んでみんなのために働く。
○調べたことを整理して、そうめん作りのひみつをまとめよう。　**【本時２/２】**	3	
○そうめんの宣伝パンフレットを作って、お店にプレゼントしよう。	2	〈国語〉工場見学のお礼の手紙を書こう。

【本時のねらい】そうめん作りの工夫や熟練した技術、働く人々の願い、安全・衛生対策などについて調べたことを整理したり、ビデオに収録した職人さんの思いを視聴したりすることによって、鴨方のそうめんは、長年に渡って働く人々の工夫や努力の積み重ねに支えられてきたことに気付くことができる。

《 展 開 》(第１０時／全１２時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　見学したそうめん工場の資料を見て、作り方のひみつや工場で働く人たちの工夫について想起する。 鴨方そうめんのよさが伝わる記事を選ぼう。	○「鴨方そうめんのすばらしさを伝えるには、どんな内容を選んでパンフレットを作ったらよいだろうか」と投げかけ、本時のめあてを提示する。
展開	2　ビデオに収録した職人さんの話を聞く。 3　そうめんパンフレットに載せる内容をグループごとに考える。 4　選んだ記事と選んだ理由を発表する。	○子供が見ても分かり、大人が見てもなるほどと思えるパンフレットを作るためには、自分たちで調べたことや感じたことから、「技術のすばらしさ」「働く人の願い」「気を付けていること」等を紹介すればよいことを確認する。 **◎昔のそうめん作り・工場でのそうめん作り・職人さんの工夫や努力・消費者が喜ぶ工夫などのジャンルから満遍なく記事を選ぶようにする。　【課題対応能力】** ☆鴨方のそうめんは、長年に渡って働く人々の工夫や努力の積み重ねに支えられてきたことに気付き、記事を選ぶことができている。
まとめ	5　そうめんが特産品になるまでの人々の取組について感じたことをノートにまとめる。 6　本時の学習を振り返る。	**◎そうめん作りに携わる人々の熱意や創意工夫についてまとめたり、お客さんに喜んでもらいたいという願いに触れたりすることで、働くことのすばらしさを感じることができるようにする。　【キャリアプランニング能力】** 

実践のポイント

★地域の教育力を生かしましょう。

ここでは、「そうめん工場の仕事」を中心とした展開を紹介していますが、校区には、地域の特色を生かした農業や水産業、工業、商業などの仕事に携わっている方がおられると思います。児童にとって身近で魅力のある産業を題材にして、その道に精通した「達人」とのすてきな出会いを中心に据えて単元の展開を考えましょう。

★各教科等の関連を考えて単元を構成しましょう。

社会科の地域学習での工場見学を核として、各教科、特別活動、道徳等と関連を持たせながら単元を構成しましょう。単元の導入時に題材に関わる共通体験を組み込むことで児童の興味や関心は高まります。また、道徳の時間の主題『働くことのすばらしさ４－（２)』と関連させることで、勤労観や職業観を育み、進んで社会に役立とうとする心情を育てることができます。

《社会科》
他者に働きかける力を育て、社会形成能力の育成を目指す

単元名　自動車工業のさかんな地域（第５学年）

ねらい

○自動車工場で働く人々の工夫や努力によって、国民生活が維持・向上していることに関心を持つ。
○調べたことをもとに自動車工場が果たしている役割と国民生活との関わりについて考え、表現できる。
○資料から国民生活を支える自動車工業の重要な役割について調べることができる。
○工夫や努力、関連工場との結びつき、新しい自動車づくりが行われていることを理解できる。

本実践とキャリア教育

本単元では、工業生産が私たちの生活の維持と向上に大きな役割を果たしていることを捉えることができます。そこで、捉えた事実から児童が個人又はグループで未来の車のアイディアを考え、提案する活動を設定しています。活動を通して友達（他者）へ働きかけたり、作成したアイディアを自動車工場へ提案する活動を設けることで社会（他者）へ働きかけたりする力を育成することができます。また、グループで意見をまとめるためにはコミュニケーション能力を必要とするため、コミュニケーション能力の育成にもつなげることができます。

全体構想

社会科（全１０時間）
「わたしたちのくらしと工業生産」

①自動車作りの仕組みを理解する。
・消費者一人一人の意見を反映させている。
・環境保全や消費者の願いを実現するために様々な工夫や努力が行われている。

【本時】
②未来の車のアイディアを考える。
・自分のアイディアを考えよう。
・友達の意見を参考に自分の考えを深めよう。
・未来の車のアイディアをまとめよう。

国語科
「わかりやすくつたえる」

・作成した資料をもとにアイディアをクラスで紹介し、友達との交流を通して、作成したアイディアを修正しよう。

総合的な学習の時間
「環境問題」

・今の地球環境を知ろう。
・環境への影響を考えた取組が行われていることを知ろう。
・自分にできることを考えよう。
・完成した「未来の車のアイディア」を工場へ届けよう。

【本時のねらい】友達との意見交流を通して、未来の車のより良いアイディアを提案書としてまとめることができる。

《 展 開 》（第１０時/全１０時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　前時までの学習を振り返り、それぞれが考えたアイディアをまとめ、工場への提案書を作成することを確認する。 未来の車のアイディアを提案書にまとめよう。	○学習したことを活用し、自動車工場（他者）へ働きかけていくことを確認する。 ○掲示やノートを確認することで、前時までの学習内容を確認し、本時の見通しが持てるようにする。
展開	2　アイディアを交流する。 ○自分の考えた自動車の案をグループで紹介し合う。 3　アイディアを深める。 ○獲得した知識を生かしたアイディアであるかどうかをグループで話し合い、グループのアイディアをまとめる。 4　学級のアイディアをまとめる。 ○グループでまとめたアイディアの類似点を学級全体で共有する。 ○類似点を集め、アイディアをまとめ、提案書を作成する。	○獲得した知識を活用した案になっているかを確認することで、話合いの方向性を示す。 **◎話合いで、個人のアイディアをグループのアイディアにまとめることができるようにする。** **【人間関係形成・社会形成能力】** ○アイディアを学級の案としてまとめる活動を設定することで、話合いの必然性が生まれるようにする。 ☆獲得した知識をもとに、未来の車のアイディアを提案書にまとめることができている。
まとめ	5　学級の案を作成することで、より実現可能なアイディアとしてまとめることができたことを確認する。 6　本時の学習を振り返る。	**◎まとまった案を自動車工場へ提出することを告げるとともに、活動の意味づけを行い、社会参画を実感できるようにする。　【キャリアプランニング能力】**

実践のポイント

★<u>他教科と関連付け、提案書を実際に提出しましょう</u>。

自分のアイディアを提案する活動を取り入れることで、工場の働きをより身近に感じることができるようになります。また、実際に提出する活動を通して、社会参画を意識することもできるようになります。その際、他教科と関連させて単元を構成することで、社会科の枠を越えた活動が可能となります。

★<u>意見交流ができる場を意図的に設定しましょう</u>。

グループの案から学級の案をまとめる活動を設定することで、話し合う必然性が生まれ、コミュニケーション力の向上を図ることができます。

《国語科》
町の未来をえがき、将来への夢や希望を育む

単元名　町の幸福論―コミュニティデザインを考える（第６学年）
（出典　東京書籍）

ねらい

○自分たちの町の未来に関心をもち、教材文や本・資料を読んで調べ、その内容や自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする。
○文章の要旨を捉えたり、自分の考えを明確にしたりしながら読むことができる。
○目的に応じて、話の構成を工夫したり、資料を的確に使ったりして、聞き手に分かりやすく伝えることができる。
○文章の構成について理解することができる。

本実践とキャリア教育

本単元では、説明文からコミュニティデザインの考え方について読み取り、自分たちの町の未来の姿をえがきます。地域で町おこしをする方に「えがく町の未来」をプレゼンテーションすることで、町の未来とこれからの生き方について考えを深めたり、地域への愛着を持ったりすることができ、キャリアプランニング能力の育成につながると考えます。
また、友達と話し合いながらプレゼンテーションの内容や発表方法を考えることで、自分とは違う新しい考えを知ったり、自分の考えを見直したりすることができ、人間関係形成・社会形成能力の育成につながります。

全体構想

	主な学習活動（全１３時間）	時数
①	**学習の見通しを持つ。** 学習の最後に、自分たちの町の未来の姿をえがき、プレゼンテーションしようという学習課題を持つ。	1
②	**説明文「町の幸福論」を読み、筆者の考えを読み取る。** コミュニティデザインの考え方について事例をもとに読み取り、筆者の考えを踏まえて自分の考えを持つ。	5
③	**プレゼンテーションの準備をする。【本時】** 聞き手に納得してもらえるような原稿や資料を準備する。聞き手に伝わる発表の仕方を工夫し、練習する。	6
④	**プレゼンテーションする。** 市役所地域振興課、地域おこし協力隊、富原地域振興協議会の方々を招き、自分たちの考える町の未来についてプレゼンテーションする。	1

他との関連

【国語】
○問題を解決するために話し合おう

【総合的な学習】
○長期宿泊体験活動
○「富原お茶プロジェクト」に参加しよう

【本時のねらい】筆者の考えをもとに、「えがく町の未来」について友達と話し合い、グループの考えをまとめることができる。

《 展 開 》（第８時／全１３時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　学習課題を設定する。 ○筆者の考えを確認する。 ○説明文と同じように、先にめざす町の姿をえがく方法で「未来の真庭市」について考えていくことを確認する。 真庭市の未来をえがき、プレゼンテーションで伝えたいことを決めよう。	○本市では説明文の筆者を迎えてコミュニティデザインを進めている。その様子を紹介する広報誌を見せることで、より身近なこととして捉えられるようにする。
展開	2　自分の考えを持つ。 ○えがく未来の町の姿を付せんに書き出す。 3　班で話し合う。 ○友達と意見を交流し、考えをグルーピングする。 4　提案したいものを一つにしぼり「○○なまち真庭市」というタイトルをつけ、理由とともに発表する。	○自分の意見が出しにくい児童には、ペアの友達と話し合うよう助言する。 **◎班で話し合うことで、自分とは違う新たな考えを知ったり共通点を見つけたりできるようにする。** **【人間関係形成・社会形成能力】** **◎地域のよさや今足りないものを考えることで、地域に目を向けさせる。　【キャリアプランニング能力】** ☆提案したいことを、友達と話し合って決めることができている。
まとめ	5　本時の学習を振り返り、次時の予定を立てる。 	○この時間での自分の学び方や自分の考え方の変化について書くことができるようにする。 **◎次時は、関係者に具体的に提案することを確認する。関連のある資料や本に目を通すなど、それまでにやるべきことを考えさせる。　【課題解決能力】**

実践のポイント

★グループ活動を大切にしましょう。

グループでプレゼンテーションに向けての準備を行い、友達の意見を参考にしたり、互いにアドバイスしたりしながら、考えを深めていくことを大切にしましょう。自分たちの町の現状について知り、同じ町に住む仲間と「町の未来」について考えることは、自分の生き方を考えることにもつながります。

★課題解決のゴールを明確にしましょう。

「地域の町おこしをされている方にプレゼンテーションする」というゴールをいつも意識させることが大切です。聞き手に納得してもらえる原稿か、資料は適切かなど、いつも相手を意識しながら準備を進めることで、話し合いの方向性が明確になります。

《算数科》
自分の考えを伝え合い、課題対応能力を育てる

単元名　小数のわり算（第５学年）

ねらい

○小数の除法の性質に着目して、考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。
○小数の除法の計算の仕方について、整数の計算と関連付けて考えることができる。
○余りのある計算を含む１／100 の位までの小数の除法の計算ができる。
○小数の除法の意味や整数と同じ関係や法則が成り立つことが理解できる。

本実践とキャリア教育

本単元では、小数の除法を初めて学習します。初めての学習に対する不安をペアトークやグループ学習を積極的に行うことで取り除くことが大切です。また、お互いの考えを出し合い、共通点や相違点に気を付けながら聞き、新しい計算の仕方をつくり出していくことが、人間関係形成能力の育成につながります。

更に、お互いの考えを伝え合う中で、これまでの学習で習得した知識や技能などの既習事項から必要な情報を選択したり、言葉や式、図、数直線などを活用したりして計算の仕方を考えるという、課題に対応する能力を育てることができます。

全体構想

主な学習活動（全１１時間）	時数
整数÷小数のわり算 **【本時２/２】**	2
小数÷小数のわり算	3
わり切れない除法計算	2
比較量、基準量、倍の関係	3
練習・習熟	1

＜学級活動＞
「学習方法を考えよう」
自分で学習の目標を立て、実現するための方法を考えて計画を立てる。

＜道徳＞２－（３）
互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し、助け合う。

＜道徳＞１－（２）
より高い目標を立て、希望と勇気を持ってくじけないで努力する。

【本時のねらい】除数が小数である場合の除法の計算の仕方を考え、説明することができる。

《 展 開 》（第２時／全１１時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　問題を提示する。	リボンを２．５ｍ買ったら、代金は４００円でした。 このリボン１ｍの値段を求めましょう。
	2　本時のめあてをつかむ。	○立式をし、既習内容との違いを捉えることにより、本時のめあてをつかみやすくする。 わる数が小数の時の計算の仕方を考えて、説明しよう。
展開	3　自力解決をする。	○既習の方法を使って、自分の考えを図や式、言葉を使ってノートに書くことができるようにする。 ○困っている児童には、教室前方で「ヒント教室」を開き、２．５の大きさを思い出したり、整数の除法に関して成り立つ性質を思い出したりできるようにする。
	4　自分の考えを伝え合い、共通点や相違点を話し合う。	**◎相手が見やすいように図や式を示し、相手に自分の考えが伝わっているかを確認しながら、自分の考えを話すことができるようにする。【人間関係形成能力】** **◎言葉や式などと場面を表す図を対応させて、言語表現と図表現の関連を図ることにより、除数が小数の場合も整数の計算に直すとできることに気付かせる。【課題対応能力】** ☆既習の整数の除法のやり方を使って、小数の除法の計算の仕方を考えて説明ができている。
	5　適用題を解く。	**◎話し合って導き出した整数の計算に直して計算する方法を使って、「８４÷１．４」の練習問題を解くようにする。【課題対応能力】**
まとめ	6　本時のまとめをし、学習を振り返る。	○本時の学習を振り返って分かったこと、友達の考えでよいところ、発表や話合いの時に気付いたことなどを具体的にノートに記述して発表し、お互いの頑張りを認め合うようにする。

実践のポイント

★説明し、伝え合う活動を大切にしましょう。

協力して問題解決に取り組むことで、新たな解決方法が得られたり、考えを広めたり、深めたりできることを、図や式、言葉を使って自分の考えを伝え合う活動を通して実感させることが大切です。ペアトークやグループトーク、全体での話合い等、問題解決に応じた様々な学習形態を工夫してみましょう。

★課題対応能力を育成しましょう。

算数科の学習では、既習事項の中から本時に使える情報を選択したり、図や式、数直線などを活用して処理したり、学習したことを使って練習問題に挑戦したりと、課題対応能力を育成できる機会がたくさんあります。課題対応能力を育てるという視点から算数科の授業を見直してみましょう。

《総合的な学習の時間》
話し合って課題を解決する意欲と能力を育てる

単元名　「ふれあい集会」を成功させよう（第６学年）

ねらい

○「ふれあい集会」に参加する人を楽しませたいという願いを持って、意欲的に活動する。
○参加者に楽しんでもらうための内容を考え、ルールを話し合って決めることができる。
○互いに評価しながら、よりよい計画を立てることができる。
○自分たちのよさ・成長・課題に気付き、表現できる。

本実践とキャリア教育

本単元で扱う、「ふれあい集会」の参加者は、保護者や小さな子供、高齢の方など幅広い年齢層です。児童が集会の計画立案や準備をするにあたって大切にさせたいことは、幅広い年齢層の参加者全ての人に楽しいと感じてもらえるよう、相手の立場に立って計画を考えることです。そのためにも、何度も話し合ってよりよい計画を立てる必要があります。友達と繰り返し話し合ったり、評価し合ったりして準備する中で、課題解決能力が育まれていきます。また、集会本番では、ていねいな接客をすることや臨機応変に動くことが求められ、児童にとって行動力が試されるよい機会となります。それだけに大きな達成感も味わうことができ、次の学習への意欲につなげることができます。

全体構想

	主な学習活動（全１４時間）	時数
①	**学習の見通しを持つ。** 「ふれあい集会」のねらいを考え、コーナーの内容を話し合う。	2
②	**準備をする。** ゲームのルール・準備物などを話し合って準備する。	6
③	**リハーサルと見直しをする。【本時】** 互いのコーナーを体験し、評価し合う。評価をもとに計画を再検討する。	5
④	**「ふれあい集会」をする。**	（2）
⑤	**集会を振り返る。** 成果と課題、自己の変容について振り返る。	1

他との関連

【総合的な学習】
○修学旅行へ行こう
○長期宿泊体験活動
○卒業プロジェクト
【国語】
○問題を解決するために話し合おう
【学級活動】
○言葉づかいと人間関係

【本時のねらい】友達のアドバイスをもとに、コーナーの改善点を話し合って決めることができる。

《 展 開 》（第１１時／全１４時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　学習課題を設定する。 ○ねらいを確認する。 ○リハーサルで評価し合ったことを確認し、本時のめあてを設定する。 友達の意見を参考にして、コーナーの改善点を決めよう。	○前向きな見直しであることを伝え、改善点や工夫点などの意見を意欲的に出すことができるようにする。
展開	2　各コーナーにアドバイスをする。 ○評価カードをもとに、気が付いたことや改善した方がよいことを発表する。 3　各コーナーで改善点を話し合う。 ○ねらいから外れないよう話合いの条件を確認する。 4　改善することに決めた内容を発表する。	○アドバイスをする時には、相手の気持ちを考えながら、伝え方を工夫するようにさせる。 **◎友達のアドバイスを素直に受けとめたり、相手の立場に立って意見を伝えたりすることができるようにする。** **【人間関係形成・社会形成能力】** **◎リハーサルやアドバイスをもとに改善点を見つけさせる。　【課題対応能力】** ☆友達のアドバイスをもとに話し合い、改善点を決めることができている。
まとめ	5　本時を振り返り、次時の予定を立てる。	○友達からのアドバイスによる自分の考えの変容などに気付くことができるようにする。

実践のポイント

★相手の気持ちを大切にすることを意識させましょう。

グループでの話合いでは、友達の気持ちを常に考えながら発言することを指導しましょう。意見の相違があっても、それを乗り越え、友達と何か一つのものをつくることができた時、相手の気持ちを考えた言動が成功の要因の一つであることに気付かせながら、継続して協力して学習する時の望ましい態度について指導しましょう。

★国語科との関連を意識させましょう。

国語科で繰り返し学習する話合いの仕方や考えの伝え方のスキルを実践的に使うことができるのがこのような学習です。国語科で学んできたことと関連していることをいつも児童に意識させながら活動を進めることが大切です。

《道徳》
次の学年へ向けての夢と自覚を育む

主題名　よりよい校風（第５・６学年）
資料名「バトンをつなげ」（出典　東京書籍）

ねらい

○新年度に向けての役割や責任について話し合い、学校への愛情を深め、夢と自覚を持って新学年へ進もうとする心情を育てる。

本実践とキャリア教育

５・６年の複式学級における実践です。６年生は中学生になることを目の前にして５年生へバトンを渡す準備をし、５年生は６年生からバトンを受け継いで最高学年になる準備をする２月。この時期は、少しずつ次の学年が近づくという意識が生まれつつも、まだはっきりとした自覚までには至っていない児童が多くいます。そこで、夢と自覚を持って新たな一歩を踏み出すことができるように、５年生・６年生それぞれの立場から、今までの経験を踏まえて意見を出し合います。互いの意見や経験談を聞くことで、新たな自覚が生まれ、キャリアプランニング能力の育成につなげることができます。

全体構想

【道　徳】
○「キャプテンとして」４―（３）社会的役割の自覚と責任　【東京書籍】
○「ありがとう上手に」２―（５）尊敬感謝　【東京書籍】
○「バトンをつなげ」　４―（６）愛校心【本時】

【特別活動】
○児童会活動
　委員会活動・縦割り活動
○学校行事
　運動会・学習発表会
　６年生を送る会

【国語】
○６年生に贈る字を推薦しよう
○「卒業文集」を作ろう

【総合的な学習】
○卒業プロジェクト

【本時のねらい】新年度に向けての役割や責任について話し合い、学校への愛情を深め、夢と自覚を持って新学年へ進もうとする心情を育てる。

《 展 開 》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　自分たちの学校のよいところを発表する。 ○残り１ヶ月で卒業する６年生と最高学年になる５年生の両方の立場から発表する。	○１年間を通して活躍してきた高学年として、具体的な行事をあげて前向きに振り返ることができるようにする。
展開	2　資料「バトンをつなげ」を読み、話し合う。 ○資料の前半までを読む。 「６年生を送る会」の進行がうまくいかない５年生。今後の展開を考える。 ○資料の後半を読む。 助けてくれた６年生たち。無事に終わった時の、５年生・６年生の気持ちをそれぞれの立場から考える。 3　１年間を振り返り、高学年として努力してきたことを発表する。	○５年生は５年生の登場人物の気持ちに寄り添うように、６年生は６年生の登場人物の気持ちに寄り添うようにする。 **◎最高学年として困難なことはあるが、努力や協力をするとうまくいくことに気付かせる。** **【キャリアプランニング能力】** **◎自分たちの手で学校をよりよくしていこうという思いを持つことができるようにする。** **【キャリアプランニング能力】** ☆学校の伝統を受け継ぐ責任と自覚をもち、自分たちの手で学校をよりよくしようという思いをもつことができる。
まとめ	4　互いの学年に対して書いた手紙を発表する。	

実践のポイント

★それぞれの立場からの気持ちを伝え合い、自己肯定感を高めて、次学年に進めるような工夫をしましょう。

多くの行事を中心となって動かす６年生は、１年間でたくさんのことを学びます。それを支える５年生もその姿を見てきているはずです。それらの経験から感じた素直な気持ちを互いに伝え合い、それぞれが責任と自信を持って次の学年へ進めるようにすることが大切です。

★行事との関連をはっきりさせましょう。

卒業に向かって、卒業プロジェクトや６年生を送る会など多くの行事がありますが、この道徳の授業で学んだことを意識させる働きかけを行い、責任と自信が持続できるようにしましょう。

《学活》
夢に向かって、あきらめず努力しようとする意欲を育てる

題材名　明日へのステップ　夢をつかむ計画表（第６学年）

ねらい

○将来への夢を持ち、夢や目標の実現に向かって、今どんな努力が必要かを考えることができる。

本実践とキャリア教育

本実践は、中学進学後に挫折感を味わう卒業生が多くいたことから、小学校段階で「困難なことにぶつかっても、あきらめない児童、夢を持ってがんばれる児童」を育てたいと考えて取り組んだ「夢への授業」の一部です。６年生の４月に「将来への夢」についての授業から始まり、６年生最後の参観日での夢作文の発表をゴールとして、１年をかけて学習を進めます。

学活や総合的な学習の時間、道徳、国語科などを関連付けたり、これまでのキャリア教育に関わる学びを生かしたりすることによって、自分の将来との関係で学ぶことの意味や意義を見出すとともに、夢や目標の実現のために努力することの大切さに気づかせていきます。

全体構想

夢の授業

明日へのステップ　夢をつかむ計画表（全３時間）

〈第１時〉職業を調べる。
・「あしたをつかめ！～ 平成若者仕事図鑑 ～」のＨＰ等でどんな職業があるか調べる。
〈第２時〉夢ファイルを作成する。
・将来への夢を持ち、今どんな努力が必要かを考える。
〈第３時〉明日へのステップを作成する。**【本時】**
・将来の予定図や理想の自分になるための具体的な努力のリストを作る。

〈総合〉
〈第１時〉夢作文を書く。
・夢を実現している自分の姿をイメージする。
〈第２時〉夢作文発表会
・６年生最終の参観日で夢作文を発表する。

他教科等との関連

〈道徳〉
夢や希望を持つことの大切さ
～有名スポーツ選手の作文から～

〈道徳〉
コンプレックスの理解・克服
～ドラえもんの声～　【学研】

〈道徳〉
あきらめない事実④
～奇跡の夢ノート～石黒由美子
【ＮＨＫ出版】

〈国語〉
卒業式当日の自分に手紙を書く。

※　ＮＨＫ「あしたをつかめ!～平成若者仕事図鑑～」は、現在放送していない。授業では、関連ＨＰを活用している。

【本時のねらい】夢や目標に向かって、どんな努力をするのかを具体的に明示することができる。

《 展 開 》（第３時／全３時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　設定した夢や将来の目標を確かめ、本時のめあてをつかむ。 自分の夢をつかむための計画表をつくろう。	○自分の夢について、今までの学習で学んだこと・調べたこと・考えたこと等の自分の記録を振り返りながら、本時のめあてを確認する。
展開	2　ゴールである将来の夢や目標の実現のための、中間地点の目標を設定する。 3　夢を実現するための具体的な手立てや自分が努力することなどを考える。	○事前に自分の夢に関わる仕事や関連する高校・大学などについての、具体的な資料を集める時間を確保しておく。 ○未来の自分を想像しながら、中学・高校・大学等に進んだ時点での学習や生活などをイメージして考えさせるようにする。 ○前時までの学習で調べた記録や資料をもとに、具体的な手立てを考えればよいことを確認する。 **◎時系列で考えさせることで、準備期間が思ったよりも短いことに気付かせ、自分が努力することや生活の仕方等を明確にさせる。　【キャリアプランニング能力】** ☆夢や目標に向かってどんな努力をするのかを具体的に明示することができている。
まとめ	4　学習の振り返りをする。	

実践のポイント

★夢や目標を明確に設定できない児童がいることを想定しましょう。

小学校のキャリア教育は、将来就きたい職業などの決定を迫り、そのための具体的な将来設計を立てさせることを目指すものではありません。したがって、子供たちの夢や目標を職業に限定する必要はありません。明確な夢や目標を設定できない児童には、「どんな人になりたいのか」を目標にさせるなど、柔軟に対応しましょう。

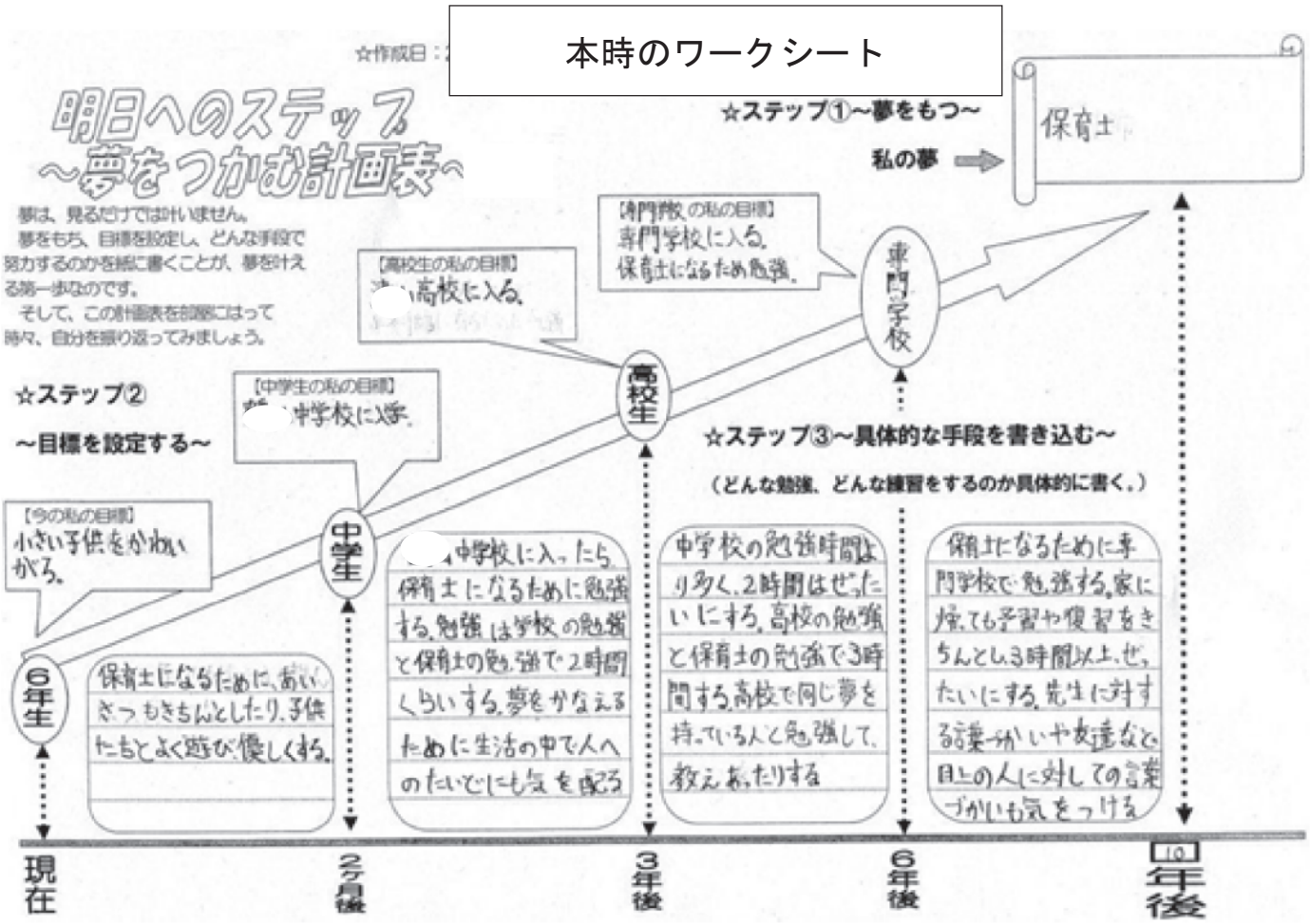
★他教科等と関連させながらゴールを目指しましょう。

１年間を通して関連のある授業をつなぎ、ダイナミックに構想することで、３月のゴールで児童の思いが最高潮に達します。担任が一つの大きなテーマを持って授業をつないでいくことが大切です。

★自分の目標や努力することを、生活の中で意識させましょう。

今の自分から卒業当日の自分に手紙を書いたり、制作物を教室に貼り、常に目に触れるようにしたりするなど、自分の目標や努力することなどをいつも意識させることが大切です。

本時のワークシート



夢ファイルとして、「夢の授業」と関連する学習で使用したファイルに記録として残し、学習のつながりを児童が意識させます。

夢ファイル　①　　月　　日　（　）

(1) あなたの将来の夢は何ですか？

(2)「夢」の作文を読んだ感想を書きなさい。

(3) 少年の夢は、叶ったと思いますか？叶わなかったと思いますか？その理由も書きましょう。

(4) 夢を叶えるために大切なことは何でしょう？

夢ファイル　③　　月　　日（　）

～卒業～

(1) みなさんは、あと３か月で卒業式を迎え、この学校を巣立っていきます。卒業式をどのような気持ちで迎えるかはあなたたちの心がけしだいです。
悔いの残らない、充実した卒業式を迎えるために次のことについて、びっしりと書きましょう。

★今の自分に欠けていること、直したいことは何ですか？

(2) 卒業式当日の自分に手紙を書きましょう。
１行目　自分の名前
２行目　卒業する（僕・私）へ
（次からは自由です。）

児童の夢作文

レッツゴー・レスキュー

「なんとか一命を取りとめたぞ。」
今日もまた人を助けた。
ある日、上司に呼びだされた。
「今日から君はレスキュー隊員の仲間入りだ。頑張ってきたかいがあったな。」とても嬉しかった。涙があふれた。今日からエンジンぜんかいでレスキューをする。
「ありがとうございます。」
と大声で言った。その後、僕は今までお世話になった人に挨拶をしに行った。
このような充実した夢を叶えたいと思う。叶える為の努力もしたい。夢は叶える為にあるのだから。
夢へのステップ、それは自分を高めることだと思う。夢は叶わないから夢と言うのだろうか。いや、それは違う。叶える為に夢がある。夢があるから強くなる。必ず夢を叶えてみせる。くじけそうな時は自分にこう投げかける。
「努力した者が報われるとは限らない。しかし、成功した者は皆努力している。」
この言葉を胸に僕は走り続ける。どこまでも、どこまでも。

今から頑張る、夢が叶うまで

採用試験合格。
「この問題わかる人」
すでに教員生活は始まっていた。今、後悔なんて言葉はない。あの時、あの一瞬、もし頑張っていなかったら、もし楽をしていれば今この一瞬も輝けていないことだろう。
教師になるには一日一時間程度の勉強量では、手が届かないだろう。夢も叶っていないだろう。夢を叶えるためには努力が必要。努力してこそ、自分の夢への道が見えてくるのだ。つまり努力しない人は夢へ近づけない。ただ一日一日を毎日むだに過ごすだけ。そんな日々を過ごすのはもったいない。今この一瞬を大切にすることが何よりも大切だ。そして未来の自分を見つめ進んでいく。その中で夢が近づいてくると思う。
「だから今から頑張らないといけないのだ。」
「だから今この一瞬を強く強調しているのだ。」
夢を叶えたいなら今から頑張る。最後の最後の一秒まで頑張ろうとする気持ちが大切なんだ。僕はこの思いを胸に、絶対夢を叶えてみせる。夢が叶うまで絶対努力し、進んでいく。必ず大物になってやる。
それが僕の夢なのだ。

６年生の最後の参観日で、児童が自分の「夢作文」を発表します。その後、担任が全児童の夢作文を１つの物語にまとめた「教師の夢作文」を発表します。

教師の夢作文

私の夢～みんなの夢が叶うこと～　　○○小学校　６年１組　担任□□○○

私の夢は、早ければ７年後にやってくる。早いか遅いかはそれぞれ異なるが、近い将来、次のような日が訪れる。
１日の始まりと共に。
朝、芳しいコーヒーの香りと共に目覚め、新聞をめくる。そこにビッグニュースが飛び込んできた。
『サッカー日本代表に、名古屋グランパスの○○、○○が初選出！』あの２人、ついにやったな。２人のＪリーグでの活躍が認められたのだ。新聞記事によると、○○君は、センターフォワード。ほんわかした笑顔とは裏腹に鋭く攻め上がるドリブル、風になびく前髪（昔は短かったのに）、そしてキーパーの意表をつくシュートが持ち味。○○君は、キーパーとしての才能が開花し、小柄ながらトビウオのように横跳びでシュートを止めまくっている。ファインセーブした後に見せる八重歯の輝き。２人が出場するワールドカップが楽しみでならない。
コーヒーをすすりながら、新聞の政治・経済欄をめくる。『民主改進党の法案が今国会を通過、官僚と政治家の適材適所での連携が功を制す。』今までになく政治が面白い。その裏では、あの男が活躍していたからだ。財務省事務次官、○○君だ。スーツ姿でオールバック。相変わらず、クールな表情だが真剣だ。この前も国会予算委員会で財務大臣の後ろで膨大な書類を手渡していたのがテレビに映っていた。日本を動かす男になったんだな。
おっと、もう出かける時間になった。双子の我が子を保育園に送らなければならない。車を飛ばし、保育園へ。そういえば今日から、新しい先生が来られるらしい。どんな先生だろう。「今日から、○○くんの担任になりました。○○です。よろしくお願いします。」なんとそこには、すっかり大人になった○○さんが微笑んでいた。笑顔がまぶしい。すると、その横では「今日から、○○ちゃんの担任になった○○です。よろしくお願いします。」○○さんがかわいいエプロン姿で微笑んでいた。フレッシュな声に桜も開花しそうだ。２人は、子供に慕われる素敵な保母さんに成長していた。○○さんは、優しい声で子供たちに絵本を読み、子供をうっとりさせ、○○さんが軽快なピアノを弾くことで、元気のない園児がヒップホップを踊り出すほどのである。２人が担任なら安心だ。そして、仕事へ向かった。
～　以下続く　～

《特別活動（委員会活動）》
自分の役割を自覚し、みんなのために役立とうとする意欲を高める

題材名　こんにちは、『スペシャルタイム』の時間です（広報委員会）

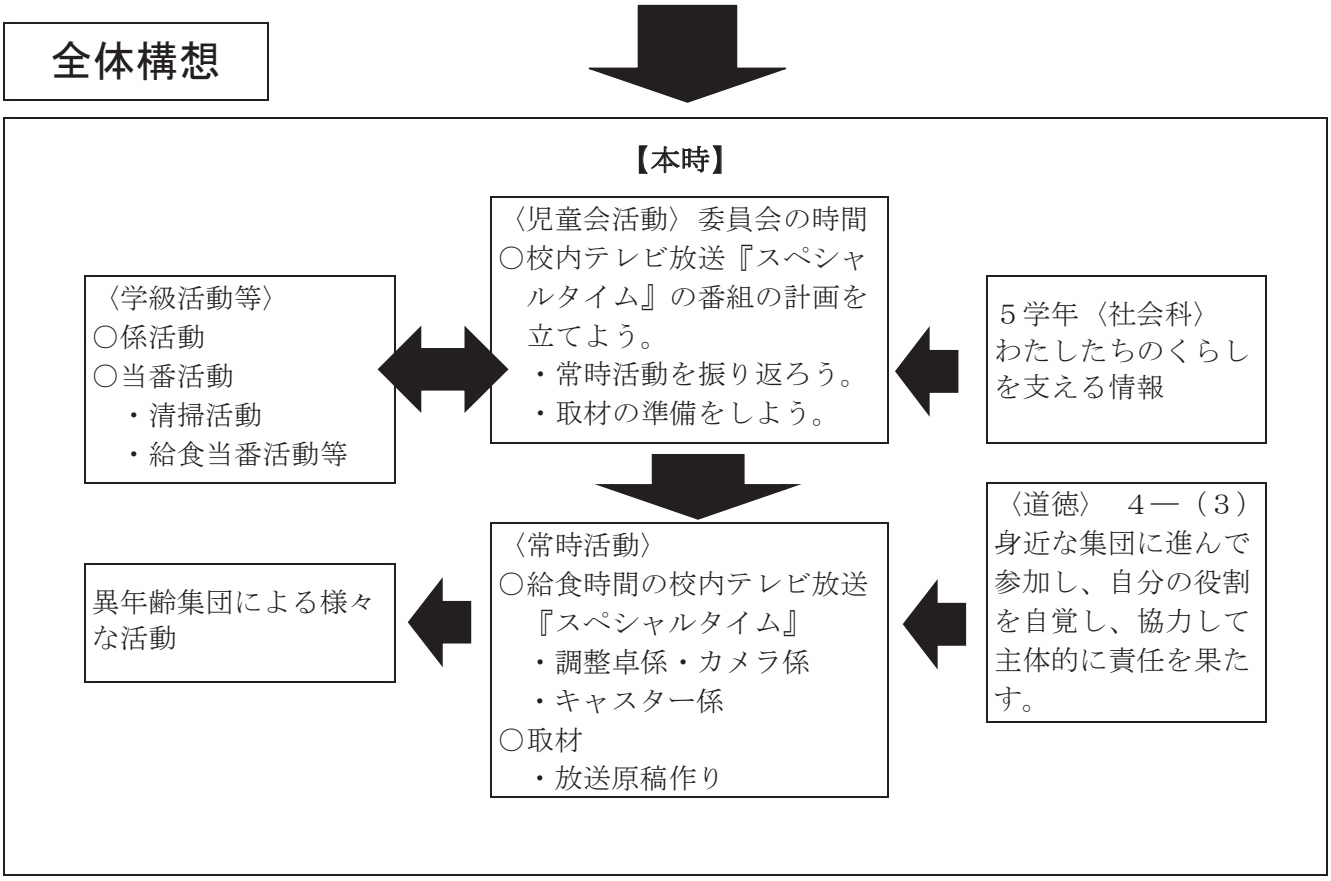
ねらい

○広報委員会による校内テレビ放送番組の制作活動を通して、自分の役割を果たしながら友達と協力して活動することの大切さや喜び、充実感を味わわせるとともに、みんなのために役立つ仕事をしようとする態度を育てる。

本実践とキャリア教育

本実践では、高学年による広報委員会の取組を通して、児童に勤労の価値や必要性を気付かせたり、進んで奉仕しようとする態度を育てたりすることで、望ましい勤労観や職業観を養っていきます。指導においては、学級活動や道徳の時間との関連を図りながら、事前・事後指導を充実させ、異年齢集団のよさを生かした効果的な指導の工夫をすることが大切です。みんなのために貢献していることが実感できるように配慮することで、児童の活動意欲を高めることができます。

全体構想



【本時のねらい】校内テレビ放送番組制作班ごとに、担当する番組の制作について話し合い、よりよい番組になるように友達と協力しながら計画を立てることができる。

《 展 開 》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
委員会の時間 （月に１回）	１　常時活動の反省をする。	○前月の常時活動を振り返ることで、改善できるところを確認し、次の制作に生かそうとする意欲を高める。
	みんなで意見を出し合い、番組の構成と内容を決めよう。	
	２　４人ずつ３班に分かれて、校内テレビ放送の計画を立てる。 ○連絡、お知らせコーナー ○先生紹介コーナー ○ニュースコーナー等 ３　取材の準備をする。 ４　本時の活動を振り返り、活動記録ノートに反省を書く。	○今月のテレビ番組での各自の役割を確認し、番組の構成や内容について話し合うようにする。 ○教師は、児童が自信を持って活動できるように、相談に乗ったり、助言をしたりする。 **◎自分の役割を意識させ、みんなに喜んでもらえる仕事をするためには、どうすればよいか考えて、意見を言わせるようにする。　【自己理解・自己管理能力】** ☆自分の役割や責任を果しながら番組の構成と内容を決めることができている。
常時活動 （休み時間や放課後）	１　取材を行う。 ○取材交渉　○撮影 	○取材前に、取材メモを持ち、打合せを行うようにする。 ○取材は、教師の立ち会いのもとで行うようにする。 ○児童が撮影したビデオは、教師が適宜編集する。
常時活動 （給食の時間）	１　『スペシャルタイム』の校内放送をする。 	○担当班はテレビ放送の５分前に放送室に集合して、打合せを行うようにする。 『スペシャルタイム』の主な内容 ①　給食の献立の紹介 ②　各委員会からのお知らせ ③　気になるニュース、先生コーナーなど ○放送時間は５分程度になるようにする。

実践のポイント

★事前・事後指導を充実させましょう。

委員会の常時活動を充実した活動にするためには、事前、事後指導が大切です。事前指導では、発達の段階に応じためあてを明確にしていきます。事後指導では、校内テレビ放送でうまくできたところやうまくできなかったところなどを振り返ったり、番組を見ている人の感想を聞いたりするなど、番組の質を向上させるための話合い活動や調査活動を充実させるように工夫することが大切です。

★評価は長いスパンで見取りましょう。

委員会活動の評価では、児童の活動への自主性や意欲などを長いスパンで見取ることが大切です。ポートフォリオなどで活動の成果を積み重ね、活動への意欲をさらに高めていきましょう。

《特別活動（児童会活動）》
働くことの意義を理解し、キャリアプランニング能力を育てる

題材名　アルミ缶回収活動を盛り上げよう（第５・６学年）

ねらい

○アルミ缶回収活動を通して、福祉施設へ車いすを寄贈する社会貢献活動を経験することで、他にも自発的な活動を行うことができるようにする。
○目標を決め、自分たちで仕事を分担し、協力して達成できるようにする。

本実践とキャリア教育

本題材は、アルミ缶回収活動を通して、社会に貢献するためのボランティア活動を経験することができます。また、アルミ缶回収を活性化するために話し合ったり、呼びかけたりすることでコミュニケーション力を育成することができます。集まったアルミ缶を換金し、募金したり、車いすに交換したりする活動を取り入れることにより社会（他者）へ参画することも経験できます。

全体構想

児童活動「アルミ缶回収活動を盛り上げよう」（全3時間）

①アルミ缶回収活動の呼びかけを行う。
・全校児童がアルミ缶回収活動に意欲がわくような呼びかけを考えよう。
・他の委員会にも協力を呼びかけよう。

②アルミ缶回収活動を盛り上げるための案を考える。**【本時】**
・アルミ缶がどのように活用されるのかを調べ、全校に伝えよう。
・アルミ缶回収活動の意義を全校に伝えよう。

③アルミ缶を換金し、社会福祉に貢献する。
・アルミ缶回収業者へ連絡して換金しよう。
・換金したお金を活用する方法を考えよう。

社会科（６学年）
「世界の人々とともに生きる」
・募金できるところを調べよう。
・ユニセフに募金をしよう。
・ユニセフの活動をまとめ、知らせよう。
・募金報告を全校にしよう。

総合的な学習
（５学年）
「福祉体験活動」
・老人ホームの取組を調べ、分かったことをもとに自分にできることを考えよう。
・車いすを購入し、老人ホームに届けよう。
・取組を全校に報告しよう。

【本時のねらい】アルミ缶がどのように社会で利用されているのかを調べる活動を通して、取組の意義を知り、自主的に活動する意欲を高めることができる。

《 展 開 》（第２時／全３時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　今までの取組を振り返り、活動をより盛り上げるために、自分たちにできることを見つけ、校内へ伝えていくことが必要であることを確認する。 アルミ缶回収活動を盛り上げるための案を考えよう。	○アルミ缶回収活動がボランティア活動であることを確認し、今までの取組成果を振り返ることができるようにする。
展開	2　アルミ缶がどのように活用されているのかを調べる。 3　グループに分かれ、取組をより盛り上げるための案を考える。 ・他の委員会に協力を呼びかける。 ・回収方法を工夫し、児童に興味を持ってもらえる方法を考える。	○アルミ缶の活用についてのわかりやすい資料を事前に用意し、短時間で調べることができるようにする。 **◎調べたことにもとづき、友達と協力しながら、取組を盛り上げる案を考えさせる。【課題対応能力】** ○児童の自由な発想を大切にしながらも、実現可能な案になるようグループごとに助言する。 ☆アルミ缶回収活動を盛り上げるための案を持つことができている。
まとめ	4　本時の学習を振り返り、取組の意義を考える。	**◎本時の学習を振り返り、取組の意義を考えることで、アルミ缶回収活動に対する意欲を高めるようにする。【キャリアプランニング能力】**

実践のポイント

★取組の意義を児童が理解できる単元構想を計画しましょう。

取組の意義を正しく理解していないと、「たくさんお金が集まるように○○しよう」などの考えが出てきます。アルミ缶回収活動はボランティア活動として取り組んでいることを常に意識させましょう。また、他教科を通じて、ボランティア活動の理解を深めていくことも大切です。

★換金の様子や車いすの贈呈の様子などの取組を頻繁に全校に伝えていきましょう。

児童が取り組んでいる活動が、実社会で必要とされている活動であることを児童会便りなどで伝えていくことが、活動を活性化する手立ての一つとなります。

《各教科等を合わせた指導（生活単元学習）》
仕事の種類や役割を考え、働くことへの興味・関心を高める

単元名　いろいろな仕事を知ろう

ねらい

○社会には様々な仕事があり、どの仕事も必要であり、社会や家族の一員としてできる仕事を進んで行い、協力しようとする態度を育てる。
○将来の自立に必要な仕事を自ら選び、技術を習得することができる。
○勤労に対する報酬の仕組みを体験することができる。

本実践とキャリア教育

本単元は、各教科等を合わせた指導の特徴を生かし、将来の自立に向けて、児童一人一人の生活上の課題に応じた様々な学習内容を積み上げることを目的にして設定しました。また、単元を通して、できることが増える達成感を味わうことができ、自己肯定感を高めることができます。

将来の自立に向け、まずは、特別支援学級（知的）の児童にとって身近なお店屋さんの仕事から活動を行います。そして、事務作業や道具や体を使った活動、集中力と根気が必要な活動等、様々な活動を「仕事」として行いながら、誰のために、何のために仕事をするのかを確認していくことで、仕事の意義と必要性に気付くことができます。更に、活動の振り返りの中で、感想を聞いたり、自分や友達のよかったところを発表したりすることにより、互いに認め合い、人と関わりながら活動する楽しさや達成感を味わうことができます。

全体構想

単元名（全２５時間）		テーマ	活動内容等
第１次（５時間）	お店屋さんをしよう	小売店の仕事	接客・重さの計測・袋詰め・あいさつ・テープ貼り
第２次（５時間）	○○組郵便局をひらこう	郵便局の仕事	仕分け作業・接客・事務作業・消印の押印・あいさつ
第３次（５時間）	○○組大工になろう	大工の仕事	道具の使用・体を使った作業
第４次（５時間）	アクセサリー屋さんになろう	物作りの仕事	細かいものを扱う作業・集中力と根気が必要な作業
第５次（５時間）	いろいろな仕事をしよう【本時】	家庭の仕事	自立に向けた仕事・家庭で役に立つ仕事・報酬の仕組み

【本時のねらい】家庭生活や将来の自立に必要な仕事を自ら選び、技術を身に付けることを通して、家族の一員として協力しようとする態度を育てる。

《 展 開 》（第３時／全５時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○配慮事項（個別の支援）◎キャリア教育の視点　☆評価
導入	1　仕事の準備をする。 2　本時のめあてをつかむ。	○前時に行った活動を写真で振り返るとともに、服装を整え、エプロンをすることで、本時の仕事への意欲を高める。 ○誰のために、何のために仕事をするのかを確認することで、仕事の意義と必要性を確認する。 **◎これまで行ったことのある仕事に加え、新しい仕事にも挑戦できるようにする。　【キャリアプランニング能力】** 新しい仕事に挑戦して、できることを増やそう。
展開	3　仕事の種類を確認する。 4　仕事をする。	**◎新しい仕事の他にも「仕事を分かりやすく人に教えること」も大切であることを確認し、児童同士が協力して作業を行えるようにする。　【人間関係形成能力】** ○ていねいに手際よく仕事をしたり、周りの友達のことを気遣いながら仕事をしたりする児童がいた場合は称揚する。 **◎ていねいでない仕事をしていた場合にはやり直しをすることで、仕事の大変さが分かるようにする。　【キャリアプランニング能力】** **◎困ったときには周囲に「助けてください」「困っています」と素直に伝えることができるようにする。　【人間関係形成能力】**
まとめ	5　学習を振り返り、まとめをする。	○振り返りを行い、本時に自分ができるようになったこと、家庭でもできそうなお手伝いに気付くことができるようにする。 ☆自分のできる仕事を増やし、家でもできる仕事をやってみようという意欲をもつことができている。 ○本時の感想を言い合い、その中で自分や友達のよかったところを発表することで、互いの頑張りを認め合うことができるようにする。

実践のポイント

★実際の生活での意欲や態度に結び付けましょう。

学校で学習した仕事を家庭に紹介し、その中から家庭で子供ができる仕事を分担し、お手伝いの仕事を振り返る中で、いろいろな仕事に挑戦する意欲や態度を家庭とともに育てるようにしましょう。そうすることで、家族の一員として協力しようとする態度が育ちます。

★友達と協力する楽しさを味わうことができるようにしましょう。

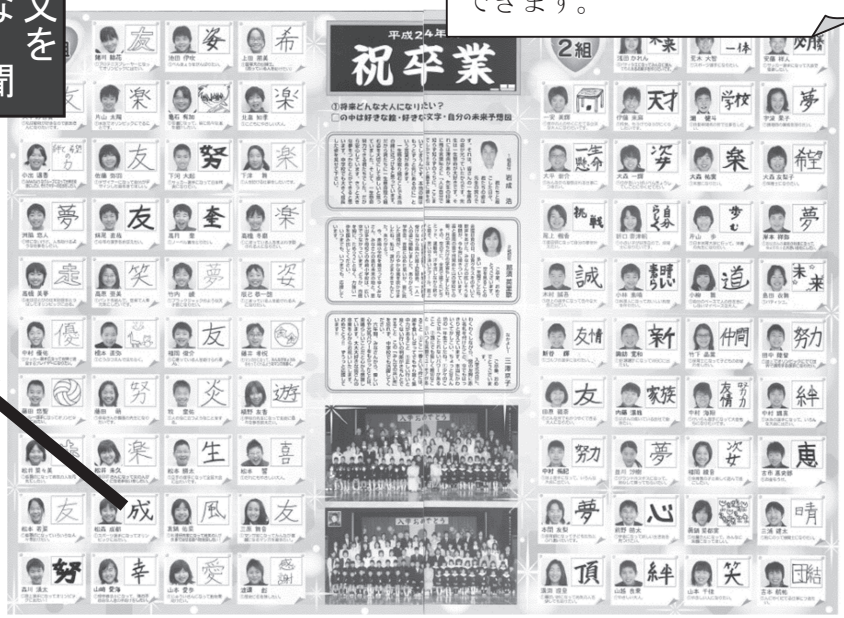
一人で黙々と仕事に取り組むことも大切ですが、やはり、仲間や友達と一緒に協力して取り組む楽しさを味わうことも大切です。「友達に仕事を教えてあげよう」「困ったときには助けてくださいと言ってごらん」など、具体的な助言をして、友達とともに活動する楽しさが味わえるようにしましょう。

夢や希望を明確にするアイディア事例

「卒業生の夢」を紹介したＰＴＡ新聞

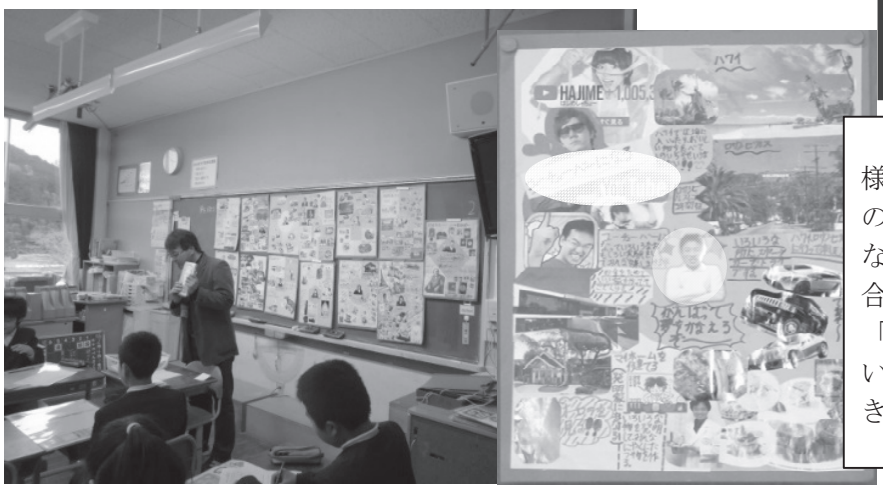
自分の夢や希望を多くの人に表明することで、漠然としていた思いを明確にすることができます。

卒業生の「好きな文字・なりたい自分」を紹介したＰＴＡ新聞



スポーツ選手になってオリンピックに出たい。

自分の叶えたい夢や成りたい自分の姿をまとめたポスター



自分の夢や希望に関連した様々な資料を、今の自分の写真のまわりに配置した色鮮やかなポスターをクラスで紹介し合うことで、「夢を叶えたい」「夢に向かって努力しよう」という思いを持たせることができました。

○　作成協力委員

岩 成　浩	倉敷市立万寿小学校	教諭
稲田　美穂	真庭市立富原小学校	教諭
工 藤　浩	浅口市立鴨方西小学校	教諭
佐藤　昌子	吉備中央町立大和小学校	教諭
藤本真砂子	浅口市教育委員会	課長補佐

○　事例作成協力校

倉敷市立万寿小学校　倉敷市立赤崎小学校　総社市立山手小学校
総社市立神在小学校　津山市立北小学校　津山市立中正小学校
真庭市立勝山小学校　真庭市立富原小学校　浅口市立鴨方中学校
浅口市立鴨方西小学校　浅口市立鴨方東小学校　浅口市立六条院小学校
吉備中央町立大和小学校

小学校キャリア教育実践事例集

発　　行：平成２８年３月
　　岡山県教育庁義務教育課
住　　所：〒７００－８５７０岡山市北区内山下２－４－６
電　　話：０８６－２２４－７５８４
ＦＡＸ：０８６－２２４－３０３５
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.pref.okayama.jp/